



市長と

車座トーク

第38回 山南学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）10月5日（木）

19:30～20:30

開催場所 清神会館 視聴覚室

参加者数 10人

次 第 市長からのあいさつ

意見交換

地域からのまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・少子高齢化が進む中、高齢者の一人暮らしの方でも安心して暮らせるようなまちづくりのために、防災対策を進化させたいと考えている。今公民館に市から提供された備蓄資材はあるが、保管場所が1か所だけなのでいざというときに不安だ。これまで学区で取り組んできた自主防災の形をもう少し変えて、生活弱者、特に増え続ける高齢世帯が安心して暮らせよう、小規模災害に備え、迅速、かつ、臨機応変に対応できるよう、自主防災と地元の事業者（土木建築、運送会社、電気設備などの設備会社）が協働し、依頼があればすぐに出ていけるような体制を行政と一緒に作っていかないか。
- ・清神会館は、舞台が非常に狭いので、その上でアトラクションをやることには制約がある。また、廊下の扉を開けても100人くらいしか入らないので、是非とも早い機会に増改築をお願いしたい。この件は自治会連合会要望事項としてあげてあり、また、市政懇談会でもお願いしている。また以前にいただいた回答にある『福山市地域交流施設等再整備基本方針』に基き、新たな拠点施設として交流館を整備していく」という言葉をどういう風にとらえていいのかわからない。山南学区ではここをま

ちづくりの拠点と考えているので、是非とも最優先で増改築をお願いしたい。山南学区の要望として出したところ、一応取り上げていただき市の幹部の方と意見交換もしていただいている。

- ・福祉を高める会では、高齢者支援課、社会福祉協議会と協力し、「向こう三軒両隣 明日は我が身」を基本理念に福祉活動に取り組み、おでかけ支援車の運行をはじめ、モデル事業やいきいきサロンなど多くのメニュー事業を行い、お年寄りの方たちから喜ばれている。年間約48回の活動では、主に清神会館を使っているが、この館は人気が高いため、予定を立てても断られることもあり、また、次の使用者がいるから終了後すぐに部屋をあけて欲しいといわれるので落ち着かない。参加者から、決まった場所や時間だと参加しやすい、話し合いやふれあいの場所が欲しいとの要望があるので、山南公民館の間仕切りをとる改修をして欲しい。それが無理なら倉庫になっている大きな部屋を使えるようにして欲しい。昔の農業分析機器などが入っていて素人の力では動かせず、交流室として使えない。
- ・水野勝成も褒めたという民俗芸能「はね踊り」は見栄えのする踊りで、これを是非、伝統文化として続け、残したい。しかし、資金の問題もさることながら、後継者が育たない。昭和42年から「はね踊り」教室を開き、小・中学生を育成しているが、ほとんどすべての子が遠くの大学に進学し、卒業後も地元に戻って来ない。また昔やっている人が定年ぐらいの年齢になって帰って来ても、他の人とテンポが合わず、皆で踊れない。せめて踊りをやっている子は福山市内の企業に優先で就職先があるような形を考えていただければ、踊りの好きな子は残ってやり続けてくれるのではないかと。
- ・民生委員が75歳になられた方を訪問して避難行動要支援者の避難支援制度登録意向調査を行っているが、75歳の段階では多くの方が自分で何とか避難できる状態にあるとのことで、ほとんど登録希望がない。必要になってからでは、自分から助けて欲しいという声を出しにくいのではなかろうか。有効な制度にするため、80歳になられた時にも意向調査をする機会をもってみてはどうか。
- ・全児童数113人の山南小学校は統廃合の検討の対象に上がっているのかを聞きたい。保護者として不安だ。また、市として中長期的な計画を立てていると思うので、学校の統廃合の基準を教えておいていただきたい。
- ・山南小学校の通学路の横は竹林で成長が早く、また、落ち葉も多く、雨が降ればぬかるみ、足もとの悪い状態になる。軽い土砂崩れも起きる。地域の人たちが手入れしてくれるが追い付かず、マムシや蛇が出る。学校のほうに言う「地域のほうでどうにかして」と言われ取り合ってもらえない。安心安全な通学路ともいえず、近所のお年寄りなどもよく通る道なので、整備していただきたい。教育委員会にお願いした経過もある。また木自体が大きくなりすぎて住民の力では伐採できない状態である。
- ・山南学区は、調整区域と都市計画区域外だけで成り立っているうえ農業振興地域がかかっているのので、耕作放棄地の活用もできず増え続け、その周辺がどんどん荒れ、蛇やイノシシが出てくる。農振がかかっていると何もできないし、自分の農地に農振がかかっていることすら知らない。農振は市条例や運用の仕方によって決まってくる要素が多いので、地域によって多少差がでてくる。もう少し弾力的に運用していただいて、耕作放棄地ができない方向でやっていただきたい。
- ・今年に入ってからイノシシを捕獲しても翌日には檻にかかる状況で、このままでは3年先には1万匹に到達する計算になる。すると、どんなに頑張ってもこの地域は捕獲しきれない。また、他の地域でも捕獲してくれないとすぐに流入してしまう。今の猟友会同士の協定では相手地区と役所からの許可がないと近隣地区へは捕りに行けない。市の捕獲方法を変えて頂き、沼隈半島全体でどう削減するかを考え、モデル的地区をつくり広域的に判断しないと、どんなに頑張っても子どもが遭遇する確率が

上がる。是非ともお願いしたい。

- ・防犯カメラ，防犯灯の維持管理費を地元で負担するようになっているが，公共要素の強い防犯につながるものは，市で予算をみてもらえないか。防犯灯は308台あるので，交換に1本最低2万円かかると仮定すると620万円必要でとても予算を立てられない。人口も減少し，節約していかなければ，将来的に自治会本体がもたなくなるのではないかという不安がある。2019年頃の交換時期には補助金制度ではなく，全額市の方で負担する方向で検討をお願いしたい。

<市長のまとめ>

- ・災害時に，色々な役割の人が協力をして迅速な対応につなげていくことは，本当に大切だ。そうした場合に備え，土木常設員あるいは地元自治会から行政に連絡が来れば，行政から登録事業者につながることを基本にしている。それに加えて土木建設などの事業者，防災リーダー，消防団の人たちをどう絡めるのが一番動きやすいのかということを考え，地域防災計画を見直し，整理してもらいたい。また，自分の家の裏山が崩れたといった時には，全体の2割を自己負担すれば残りは補助金で危険を食い止め，災害を復旧するという事業もある。支所を中心として議論し，整理していただくとありがたい。
- ・改修の検討状況については，対象の部局で再度確認する。公民館の増改築については，基本的には地元でそれぞれ工夫をしていただきながら，今の施設を上手く使っていただくことを基本にしている。また，『地域交流施設等再整備基本方針』に基づいて，新たな交流施設・まちづくりの拠点施設としてここから考えていく」の意味は「今地域にある3つの交流施設，公民館，ふれあいプラザ，コミュニティセンターを今後の時代に向けて1つにして新しい交流館というものをつくり，地域活動を一本化していく」という新たな発想である。従って，「まちづくりの新しい拠点施設」というのは，「今後の交流館の整備計画」のことをいっていると思う。ただ問題は80近くある学区で順次交流館を作る訳なので，古いところから順番にやっていくことになる。申し訳ないが当面，現状で上手く工夫され使っていただきたい。また，それでも使い勝手が悪ければ良い案を教えてください。
- ・ふれあいサロンのために決まった部屋をとの要望だが，山南公民館の壁をぶち抜くというのも一つの考え，あるいは，今清神会館にある部屋の使い勝手を良くすることによりもっとも利用回数を増やすというのも一つの考えである。色々考えさせて欲しい。
- ・地元の伝統芸能を守っていただいで感謝する。やはり，故郷に対する想いを持つ一番大きな要因の一つだと考える。また，伝統芸能の伝承に限らず若い人が流出していくことは，都市が発展していく上での大きな課題だと思う。だから，福山には特徴のある大学がある，あるいは，大学を出ればこんなに素晴らしい働き口の企業がちゃんとある，ということの中高校生にしっかりと教え周知していく取組を強化することで，若い人がそのまま市内に就職するようしていきたい。
- ・「避難行動要支援者の避難支援制度登録意向調査」について80歳到達時に再調査するのはいいご提案だ。早速，検討したい。要支援者の申し出は本人が希望されればいつでもできるし，登録後の取り消しも自分の意思でできる柔軟な制度になっている。従って，次に80歳到達時まとめて再意向調査するやり方もあるし，また，今日常的にやっていただいている民生委員，福祉を高める会の方々や手分けして75歳以上の高齢者の日々の見守り活動をするとか，サロンに来たときに聞いてみる，自治会で手分けし担当する，などの手法，また，「不安なら一応要支援者の登録をしておく？」と声

- 掛けをしていただくというやり方もあると思う。是非、自治会の中でよく相談をしていただきたい。
- ・今の時点で山南小学校は、再編の対象にはなっていない。それで今、市内の小学校を、第1、第2、第3と3つのグループに分けている。言い換えると複式学級になった場合、そのような状態で教育を続けることが子どもの教育環境としていいのかどうかを検討する、つまり、再編を念頭に置いた検討をする段階に入っているのが第1グループである。山南小学校は、第2グループである。ほとんどの地域で生徒が減ってきている中、今、第1グループについて議論をしている。
 - ・通学路の安全対策について、学校も保護者に任せきりという姿勢はおかしいと思う。学校にもよく考え直させる。その上で行政も、できることがあれば、やらないといけないと思う。マムシが出てくるということになると、保護者の方は、気が気でない気持ちはよくわかる。大きな木のことも、皆で力を合わせれば地元で出来るならお願いするが、今のお話だと、すでにそのレベルの域ではないという話なので、ここもよく沼隈の支所の方で確認させる。状況をよく確認した上で、どうすべきか考えさせていただきたい。
 - ・農振地域の農用地を除外するためには必要な手続きをするのに、大体3～4か月程度かかると言われている。現在制度では、そういう手続きを経ながら、必要な場所にはその除外の手続きによって必要な利活用の可能性も出てくるということになっている。開発行為の弾力化ということも、今、担当部局で検討中である。そういうことを踏まえながら、過去の線引きに固定されることなく、地域が活性するためにどういう土地利用のあり方ができるのかということ、今、検討し、考えている。そういうなかで、地域の課題解決につなげていきたいと思う。
 - ・イノシシ対策についてだが、猟友会の方からすれば、行政がすることが後手に回っている印象をお持ちだと、今の話を伺い改めて思った。県や国もなかなか有効な手段や施策がないんだろうなということが正直ある。今すぐに、では、こういうやり方を取りましようと言えないのが残念だ。改めてどういう考えを展開していかなければいけないのか、考えてみたい。
 - ・防犯カメラは設置時に10分の9を市が、10分の1を地元が負担すると説明している。また防犯灯は更新時までの間地元で積み立てして欲しいという約束の書類で交わしているはず。だから、更新のための予算を計画的に積みたてる必要性は予測できたと思う。しかし、地元からしてみれば切実な問題なので、役割分担についてはこれから再検討する。是非、地元でも汗をかいて頂き、すべてが行政責任と言わずにできるだけ負担軽減につなげていきたい。防犯に強いまちづくりの意向が地元要望であれば、しっかり聞かせて頂く中で、どこを地元が我慢するのかということ併せて議論する必要がある。そういう時代にこれから入る。そういう中で、お互いにとってのいい方法、役割分担について考えながら、課題を解決していかなければいけない。

<地域からのあいさつ>

市長さまをはじめ、市の幹部の方に大勢集まっていただきまして、本当にありがとうございます。今日は10名の者が意見を述べさせていただきましたが、十人十色、色んな意見を持った市民の一部の意見です。私たちも今までの先輩たちが築いてこられたこの山南の町を大事にしながら、これから先もあるべき姿を模索しながらやっていきたい、そんな思いがしています。行政の皆様には是非色んなお知恵を、また、財政的にも支援をしていただきながらより良いまちにしたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。